

3.11 を忘れない

～ひとの復興～

震災で親を亡くした子どもと家族に寄り添う

みやぎ生協から被災地宮城のいまをお伝えします

宮城県では1,066人の子どもが震災で親を亡くしました(※)。津波の後で親の死を知った時の絶望、未だ行方不明の親を想う辛さは、想像に余りあります。

あしなが育英会は2014年、東日本大震災で親を亡くした子どもとその家族が集う「レインボーハウス」を仙台、石巻、陸前高田に開設しました。

レインボーハウスは阪神・淡路大震災をきっかけに誕生した心のケアの活動拠点です。東日本大震災が起きた時、若宮紀章さん(あしなが育英会東北事務所)は「東北にもすぐレインボーハウスが必要になる」と思ったそうです。

石巻レインボーハウスの開設準備中、こんなことがありました。

どんな施設を建てたいか、子どもたちに工作で表現してもらったところ、母を亡くした小学1年生の子が部屋の片隅にお墓を作ったのです。お墓の中には紙の人形が入っていました。

「その子なりの感情表現だったのだと思う。亡くなった家族の話は学校でも家庭でも話にくい。成長とともに自分の気持ちを言葉で表現できるようになるが、神戸の震災で親を亡くした子どもたちは今も簡

単には言えない複雑な感情がある”と口にする。東北の子たちも同じ辛さを抱えるだろう。それだけに長いスパンでの寄り添いが大事だ」と若宮さんは言います。

また「心の内側は6年前の3月11日からあまり変わっていないんじゃないか」と感じる時もあるそうです。「“変わってない”部分は、繊細で複雑で困難なことが多い」と言います。それを吐き出すことなく内に溜めていけば、心は疲弊する一方でしょう。「レインボーハウスで同じように家族を亡くした人たちと語り合い、自分の気持ちを表現することで前に進むきっかけを見出す。そのお手伝いができれば」というのがレインボーハウスに携わる人たちの共通の思いです。

震災遺児・孤児を支援するため行政をはじめ各支援団体がさまざまな活動を行なっています。レインボーハウスはその一角を担うものですが県内の震災遺児・孤児すべてとつながるのは困難です。子どもが望めばいつも手が差し伸べられる環境をつくるのは大人の責任です。そのために何ができるか、これからも考えていかなければなりません。

※宮城県「本県の震災遺児・孤児の状況」(平成28年7月31日現在)



▲子どもたちの作った「2016年のいいことツリー」。“新しい家に引っ越した”“高校に入学した”など嬉しい出来事を書いたカードが並ぶ。



▲若宮紀章さん。あしながおじさんが描かれた壁には石巻レインボーハウス建設に寄附金を寄せた人々の名が掲げられている。

「すこやかふくい2016」で、全労済と一緒に、災害への備えを呼びかけ

子育てファミリーが防災クイズに挑戦。防災グッズにも高い関心

去る11月26・27日、福井県産業会館において「すこやかふくい2016」が開催され、福井県生協連は全労済と一緒に「防災・減災」に関心を持っていただくブースを出展しました。

「すこやかふくい2016」は子どもたちの健やかな成長をサポートする団体が実行委員会形式で企画しており、子育てのための情報や楽しいイベントが満載で、多くの子育てファミリーが参集しました。

全労済と福井県生協連のブースでは、全労済が「ぼうさいクイズ」コーナーを、福井県生協連が「防災グッズ」コーナーを受け持ち、災害への備えを呼びかけました。生協へのブース来場者数は2日間で2600人を超え、「いちばんだいじなのは、じぶんのいのちとひとのいのち」(全労済「ぼうさいえほん」より)と、多くのファミリーに災害の備え方を知っていただくことができました。



福大健康祭で『シュガーテスト』ブースを出展

12月2日に開催された『福大健康祭』(福井大学生協主催)に、福井県生協連は『シュガーテスト』のブースを出展させていただきました。公益社団法人ふくい・くらしの研究所から講師を派遣していただき、日ごろ自分が飲んでいる清涼飲料水に含まれる糖分がどれくらい入っているか計算していただき、飲みすぎ注意を促しました。

自分が日ごろ飲んでいる飲料水には、砂糖に換算するとシュガースティック8～16本にもなる糖分が含まれていることに、どの学生さんもびっくり! 酸味料や香料、着色料などでおいしく飲めるからくりを納得の様子でした。

正しい食生活と適度な運動・睡眠で、健康な学生生活を送ってほしいですね。



会員生協のボランティア活動紹介

福井県生協連では、会員生協(組織または役職員・組合員)が行っているボランティア活動に対して助成金をお渡しし、活動を応援しています。



福井県民生協

①いわて桜植樹ボランティア(東日本支援)

津波の恐ろしさを後世に伝えるため、津波が到達したライン約170kmに桜を植樹している岩手県陸前高田市のNPO「桜ライン311」の植樹会に、昨年11月19日組合員・職員9人で参加しました。あいにくの雨となりましたが、指定の場所にベニシダレザクラ3本を植樹してきました。しっかり根付いて、安全の道標となることを祈っています。



福井県民生協

②「サウルコスと遊ぼう」を開催(子育て支援)

次代を担う子どもたちの健全育成を支援しようと、地元のサッカーチーム「サウルコス福井」とのコラボで子ども向けのイベントを開催しました。福井・丹南・敦賀の3会場で男女104人の子どもたちが、コーチや選手の指導のもと、サッカーボールを使っておにごっこやドリブル、リフティング、最後にはミニゲームを行い、元気いっぱい、楽しい時間を過ごしました。



平成28年度「消費者教育推進フォーラムin北陸」報告



- テーマ 「学校や地域における消費者教育の充実に向けて」
- 日時 11月21日(月)
- 於 金沢市
- 主催 「北陸ブロック地方消費者フォーラム」
実行委員会・消費者庁・文部科学省
- 参加者 38機関・220名

地方消費者フォーラムは、地域において消費者問題に取り組む様々な人々が情報や意見の交換を行う「交流の場」として、平成22年から全国8ブロックで開催されています。

今年度は、北陸ブロックとしては初めて文部科学省の「消費者教育フェスタ」との併催となり、消費者団体、消費者行政担当者、教育委員会、学校、企業などから220名が集いました。

消費者教育の推進に繋がるきっかけ作りをしていただければと、静岡大学教授で消費者問題ネットワークしずおか代表の色川卓男氏のミニ講座、消費者教育の実践事例報告、分散会で意見交換を行いました。また、展示見学・実践交流では消費者団体の活動紹介や企業の資料の展示・説明が活発に行われました。



『生協ボランティア月間』は終了しました。

(2016年11月15日～2017年2月15日)

収集物は、福井県ボランティアセンターを通じて、収集ボランティア団体からコレクターに売られて換金され、福祉活動に活用されます。ご協力ありがとうございました。

生協ボランティア月間報告

収集物	16年度の量
使用済み切手	3,040g
ベルマーク	8,168.2点
書き損じ葉書	155枚
外国コイン	国:14ヵ国 紙幣枚数:1枚 コイン枚数:87枚 他に日本の古銭も

会員生協の活動報告 & 予定案内

福井県学校生協

組合員に感謝! 秋の生協祭り2016

平成28年11月5日(土)～6日(日)の2日間に渡り、指定店の活性化と福利厚生事業の一環として、(一財)福井県教育センター全館にて、「秋の生協祭り2016」を開催し、約350人の組合員さん及びご家族の方にご来場いただきました。

日頃のご協力、ご支援に感謝をして、350円でおろし蕎麦(県内

丸岡産蕎麦粉100%使用)を食べられる「手打ち蕎麦」のブースには、「挽きたて・打ちたて・茹でたて」三拍子揃った新蕎麦の風味を味わう組合員さんの姿で列ができ、舌鼓を打っておられました。

また、「新鮮野菜・果物」のブースでは、200円で「みかんの詰めほうだい」や「北海道産じゃがいも・玉ねぎ」の特売コーナーを催し、秋の生協祭り2016は盛況のうちに終了いたしました。

